

令和元年度大岡小学校 6年2組 クラスの学びを発信します！

大岡クレヨン工房6-2

5年生までの大岡の時間で地域の方とたくさん関わりをもってきた子どもたちは、卒業後も町の一員として生活していく上で、もっとたくさんの人と関わりを広げたいという思いをもちました。ものづくりに関心があった子どもたちは、自分たちが作った物で地域の人と関わることはできないかと考える中で、顔料と蝋があればクレヨンが手作りできるらしいことを知りました。そこで、クレヨンについて調べてみると、身近な野菜や植物から顔料が作れること、蜜蝋から作られたクレヨンがあること等が分かりました。そして、商店街に以前の6年生が関わり続けているミツバチの養蜂箱があることを思い出し、「地域の物だけを使ってクレヨンが作れそう！」とクレヨン作りへの思いを一気に膨らませていきました。



よう！」ということで、一人ひとりが顔料として使える物を持ってくることになりました。ココア、抹茶、塩、入浴剤等、それぞれが準備した顔料でさっそくクレヨンを作ってみると、結果は様々でした。「描けた！」「きれい。」と、初めてのクレヨン作りに手応えを感じる子もいれば、「色が全然つかない！」「何かべたべたする。」と、課題を見つける子もいました。1回目のクレヨン作りから、色の薄さやべたつき、崩れやすさ等、改善点がいくつか見えてきたことで、一人ひとりが何をどう改善するのか具体的な改善策を考えながら、2回目、3回目とクレヨン作りを続けてきました。

3回のクレヨン作りを通して、描き心地や発色のよいクレヨンにするための材料の比率が分かってきました。今後は6年2組ならではのクレヨン作りに向け、さらに活動を続けていきます。

